

19. アントファガスタ社(Antofagasta plc)

1. 企業概要

本社	イギリス・ロンドン
主要事業	非鉄金属鉱山、鉄道・道路輸送、水道事業
従業員数	2,458人(2003年平均)
決算日	12月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ アントファガスタ・ミネラルズ社 (Antofagasta Minerals S.A.: 100%) ・ ミネラ・ロスペランブレス社 (Minera Los Pelambres: 60%) ・ ミネラ・エルテソロ社 (Minera El Tesoro: 61%) ・ ミネラ・ミチリヤ社 (Minera Michilla S.A.: 74.2%)

2. 財務状況 (US\$ million)

	2003年	2002年	2001年
売上高 Net operating revenue	1,076	863	770
当期利益 Net Income	181	97	62
資産 Total assets	2,406	2,458	2,514
流動資産 Current assets	452	441	412
負債 Total liabilities	1,558	1,522	1,414
流動負債 Current liabilities	309	247	232
株主資本 Total shareholders' funds	906	960	929
探鉱費 Exploration expenditure	3.5	2.8	9.8

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2003年	2002年	2001年	2003年の 世界シェア
銅鉱石(千t)	289	289	286	2.1% (11位)
モリブデン(千t)	5.2	4.7	4.2	3.9% (6位)

4. 沿革

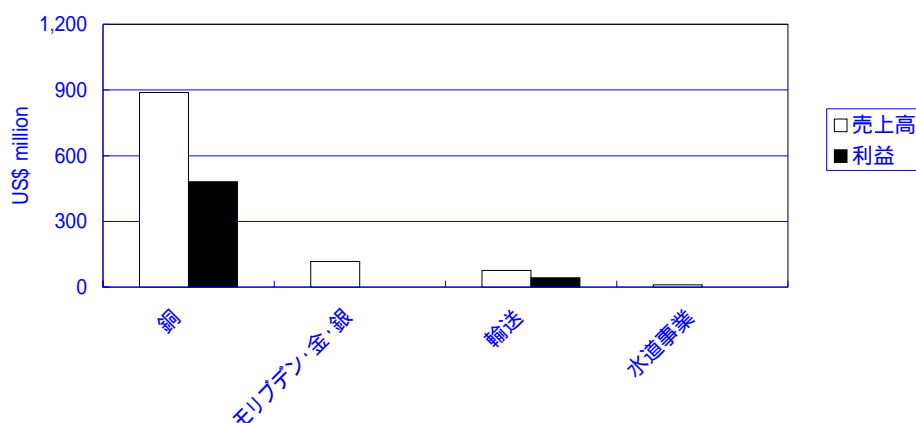
Antofagasta社は当初、ボリビアの銀鉱山との輸送路を確保すべく、チリ北部の港町Antofagastaとボリビアの首府La Pazとの間を結ぶ鉄道を建設するための資金をLondonの金融市場で調達する目的で、"Antofagasta (Chile) and Bolivia Railway Company"として1888年にLondonにて設立された。その後北部チリの銅及び硝酸塩の輸送にも供するようになったが、1979年までは英国資本の会社であった。

1980年にチリの産業資本家であるLuksicグループが同社の大半の株を取得し(2003年末現在、Luksic家族は65.04%の株を保有している)1982年に鉄道事業の管理・運営及びチリにおける投資を行うための持株会社Antofagasta Holdings plc(1999年にAntofagasta plcと改称)が作られた。1990年代に同社は事業の多角化を図り、鉱業、銀行業、製造業及び通信事業などに進出した。鉱業部門では1983年にMichilla鉱山を買収し、1986年にAtlantic Richfield社からAnaconda South America社を買収したが、この中にはLos Pelambres鉱山が含まれていた。1990年に同鉱山の開発を推進するために、Antofagasta社、Midland銀行及びLucky Gold International社(韓国)間に合弁会社が設立されたが、1995年にAntofagasta社の100%所有となった。1996年にAntofagasta社は銀行業及び製造業を同じLuksicグループに属するQuinenco社の事業に併合させて、同社はLos Pelambres、El Tesoro鉱山事業に専念することにした。この結果、現在では専らチリにおける3銅鉱山(Los Pelambres、El Tesoro及びMichilla)の事業に注力し、世界の大手、かつ低コストの産銅業者としての地位を確保している。

5. 事業内容

チリにおいて100%子会社の Antofagasta Minerals 社を通して Los Pelambres, El Tesoro 及び Michilla の3鉱山の権益を保有し、銅・モリブデン鉱石の生産を行う他、北部チリで鉄道・道路輸送及び水道事業を行っている。このうち Los Pelambres 鉱山の売り上げが全体の68.5% (2003年) を占め最大の事業部門である。これに El Tesoro 鉱山 (15.5%) が続く。鉄道・道路輸送及び水道事業の売り上げは全体の7%と比重は少ない。なお2004年末現在 Los Pelambres 鉱山の権益の残り40%は日本 (日鉱金属、三菱マテリアル、丸紅、三菱商事及び三井物産の計5社) が所有している。

2003年部門別売上高と利益



(利益は operating profit、銅にはモリブデン・金・銀分も含む)

(銅・モリブデン)

Antofagasta 社の事業の中心は何と云っても、チリ中部 Coquimbo 州 Los Pelambres 鉱山を中心とするチリの3銅鉱山で、全社の売上高の93%、営業利益の99% (いずれも2003年の実績) を占めている。2003年の鉱種別売上高は銅 US\$621百万 (84%)、モリブデン US\$105百万 (14%)、金・銀 US\$11百万 (2%) である。モリブデンは Los Pelambres 鉱山で生産される。

2003年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ロス・ペランブレス (チリ) Los Pelambres	60	2,074.0	OP	0.65% Cu 0.0173% Mo	327 千 t Cu (196 千 t) 8.7 千 t Mo (5.2 t)
エル・テソロ (チリ) El Tesoro	61	183.3	OP	0.78 %	92 千 t (56 千 t)
ミチリャ (チリ) Michilla	74.2	21.8	OP, UG	1.40%	53 千 t (39 千 t)

Los Pelambres 社は2003年5月に地区環境当局に環境影響評価報告を提出していたが、これが2004年3月に認可され、これによりマイン・ライフが20年延長されることになり、現状の生産レベルで2050年まで生産継続が可能となった。このためには、Mauro tailing dam や廃棄所の建設及び現在の選鉱能力を45%増強し、日産175,000 tとする必要がある。Mauro tailing dam は21億 t の貯蔵能力を持つが約 US\$450百万の建設資金を要する。選鉱能力の増強は2005年に始まり2008年初に完成予定。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

2003 年の探鉱費は US\$3.5 百万と多くはないが、品種を銅、地域をチリ及び隣国のペルーに絞って行っている。

(2) 対象鉱種

主として銅の探鉱を行っている。

(3) 対象地域・探鉱段階

対象地域はチリ及びペルーで、既存鉱山の周辺炭鉱が中心であるが、ペルーではグラス・ルーツ炭鉱も行っている。

(4) 最近の動向

(チリ)

北部 Antofagasta 州の Sierra Gorda 地区にある既存の El Tesoro 鉱山の東部・南部周辺地域の探鉱を集中的に行っている。その結果、Esperanza ではドリリングの結果、0.26 g/ t の金を含有する品位 0.63% の銅鉱 443 百万 t の埋蔵が推定されている。現在検討段階にあるが、2 年以内に Pre-F/S 調査に移行する見通しである。同じく Antofagasta 州 El Alba 地区の Conchi 及び Brujulinas で合計 42,000 m に及ぶドリリング調査を行う計画である。

(ペルー)

Antofagasta 社の 100% 子会社 Minera Anaconda Peru 社がブラジルの CVRD 社と折半で合弁会社 Cordillera de Las Minas 社を設立し、ペルー南部の Cuzco 近郊で探査活動を行っている。一方、Antofagasta 社が 51% の権益を所有し 1999 年以来炭鉱・ボーリングを続けて来た Magistral 銅開発プロジェクトは、資源量が同社の最小基準量に及ばないことが判明し、権益を 2004 年 2 月パートナーの Inca Pacific 社に売却し同プロジェクトより撤退した。